

# 平成30年『けんろく会』ゴルフコンペを開催しました

## 第1回 平成30年6月23日(土)

平成30年 6月23日(土) 現役、OB、関係団体関係者 総勢15名が参加されて、北広島市内のダイナスティゴルフ倶楽部にて開催しました。天気予報とは違って、大変寒くジャンパーなど着てスタートしましたが、皆さん悪戦苦闘しながら、心も身体も段々暑くなり、楽しい一日を過ごされました。

今回は、最近絶好調の建災防次長の木谷 泉氏と、Mz原田の高澤 順一氏が大活躍をし、見事な成績を納めました。おめでとうございます。



開始前の集合風景



優勝者 木谷 泉氏

● 成 績

- 優 勝 木 谷 泉 氏 (建 災 防) グロス：89 (HC16)、 ネット 73
- 準 優 勝 高 澤 順 一 氏 (Mz 原 田) グロス：102 (HC28)、 ネット 74
- 3 位 田 中 清 貴 氏 (元：勇 建 設) グロス：99 (HC24)、 ネット 75

## 平成30年9月24日(月) 第2回

平成30年 9月24日(月) 現役、OB、関係団体関係者 総勢11名が参加されて、北広島市内の札幌サンパークゴルフ倶楽部にて開催しました。(参加者が少なすぎ) スタートした時は、最高のゴルフ日和でしたが、途中集中豪雨に見舞われ、雨具を着る暇もなくずぶ濡れの状態となり、スコアメイクに苦労しましたが、何とか楽しい一日を過ごすことができました。

今回は、若手のホープ参加2回目の富川 貞仁氏(国昭建設)が先輩のプレッシャーにもめげず見事な成績を納めました。おめでとうございます。



開始前の集合風景



優勝者 富川 貞仁氏

● 成 績

- 優 勝 富 川 貞 仁 氏 (国 昭 建 設) グロス：92 (HC20)、 ネット 72
- 準 優 勝 卷 田 卓 雄 氏 (宮 坂 建 設 工 業) グロス：100 (HC25)、 ネット 75
- 3 位 坂 下 淳 一 氏 (一 二 三 北 路) グロス：111 (HC36)、 ネット 75

### ☆ information ☆

●次回開催予定

平成31年6月中旬に計画をしております。(幹事が変わります) 今までありがとうございました。田中組 伊藤

●新会員の募集について

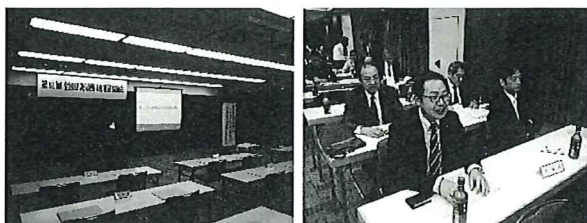
新会員を常時、募集しております。「けんろく会」に入りませんか? 連絡お待ちしております。

●平成31年度幹事：国昭建設(株) 富川(電話：090-3113-7212)

## 第 61 回全国建設労働問題連絡協議会並びに 第 37 回全国労研交流会議に参加して

(一社) 札幌建設業協会 労務研究会  
委員 長 高橋 雅勝  
安全環境部会 坂下 淳一  
企画 会 富川 貞仁

この度、11月1日から11月2日までの2日間の日程で、第61回全国建設労働問題連絡協議会並びに第37回全国労研交流会議へ札労研を代表し出席させていただきました。



11月1日の第61回全国建設労働問題連絡協議会には、厚生労働省・国土交通省・各関係団体・各地方労研ならびに労研OB各位が出席する中、厚生労働省からは「働き方改革推進法における労働時間の見直しについて」の基調講演があり、そのポイントは、なぜ働き方改革が必要なのかとのことです。それは人口減少問題と時間外労働による過労死の問題があるとのことでした。

続いて働き方改革の取組2事例の発表があり1例目は、佐久間建設工業株式会社(福島県)から「地域と共に生きる建設業の役割とこれから」と題しての発表があり、中山間地域の建設業者が、完全週休二日制へ移行したことにより、若手が増え離職率も下がり将来の担い手確保に成果が表れたとの内容でした。

次に木下建工株式会社(長野県)は「休日増加への課題と実践」と題しての発表では、変形労働時間制を採用し週休二日(毎週5日間勤務とし週間の祝日は出勤)と休憩時間を固定せず仕事の切れが良いタイミングで60分休憩する体系へシフトしたところ業務効率も上がり成果が上がったとの内容でした。

その後、国土交通省より「建設産業行政の最近の話題について」と全国建設業協会より「外国人材の受入に関する新たな在留資格について」をテーマにした基調講演でした。

改めて、地方建設業にとって働き方改革に関する「本質」を知り・考える良い機会となりました。

働き方改革の一つとして「やりがい」と「休日」を創出することで、担い手としての若手の意識向上をもたらすことが大きいと実感いたしました。

11月2日の第37回全国労研交流会議では、初めに本多理事長より挨拶、その中で最近全国的に災害が多く、緊急工事視察では散々たる状況であったこと、働く方が安心できる環境づくりをする為に、働き方改革の旗振り役としてこの交流会を通してスキルアップに役立てていただきたいとのことでした。



続いて各地方労研の成果発表があり、内容は以下の通りです。

### 1. 各地労研成果発表

#### (1)【大阪労研】

##### ①平成30年度「ご安全に運動研修会」

好事例写真とパトロールの指摘事項について、特に指摘事項に関しては是正前→是正後(墜落・転落、転倒、崩壊・倒壊、切れ・こすれ)の内容。

##### ②労働災害発生状況調査結果

安全度数率について大阪は全国平均より低い結果となり、労研活動の成果と考えているとのこと。

#### (2)【北海道労研】

##### ①建設業の魅力と未来

##### ②建設業で働く私たちのために

##### ③公共事業労務費調査に関する(労務費調査を受けられる皆様へ)Q&A

なお資料については北海道建設業協会ホームページよりダウンロード可能。

##### ④「建設のすべて」建設業界PRのDVD鑑賞

DVDは将来の担い手確保に向けた大変分かり易い内容であり、ユーチューブで見られることも可能。

## (3)【四国労研】

①安全衛生手帳の見直し（平成 30 年度版）

## (4)【仙台労研】

①会報第 66 号による活動報

内容的には関係各位の挨拶→活動報告（部会活動等）→親睦→会員名簿→各監督署幹部名簿。

## (5)【福岡労研】

①「安全ポケットブック」の改訂

イラストを交え分かり易いものを作成中（1 月未完成）。

## 2. 東京労研の活動状況

## (1)「安全衛生委員会の活動報告」

①グッドプラクティクス部会

災害種別、作業種別の安全ポイントについてイラストを交え分かり易い冊子編集を行った。

②職長安全部会

建設職長ノート「安全対策の決め手」の編集を行った。

③委託事業特別部会

災害事例の情報収集・調査を報告書に纏めている。

## (2)「労務管理委員会の活動報告」

①偽装請負に関してパワーポイントで説明。

②外国人労働管理規定、労災保険 Q &amp; A 改訂し発行。

## (3)「教育委員会の活動報告」

①新入社員が学ぶ災害防止、リスクアセスメント手法を活用した作業手順書を発行。

## (4)「労務安全必携編集委員会の活動報告」

①平成 30 年版労務安全必携（書籍・CD-ROM）発行。

## (5)「特別委員会の活動報告」

①フルハーネス型安全帯（墜落防止器具）の着用に関する選定基準作成スケジュールについて

- a. 安全帯落下試験。
- b. 法令改訂解釈の確認。
- c. 墜落防止器具着用に係わる選定基準及びイラストの作成。
- d. 厚生労働省、建災防に上記判断基準の確認。
- e. 成果物内容を各団体（労研、日建連、全建、建専連等）にて確認。

## 3. 建災防本部の取組み

## (1) 第 55 回全国建設業労働災害防止大会

(9 月 20 日、21 日)

## (2) 建設業におけるメンタルヘルス対策

①374 社に対しアンケート実施（内 36.2% が取り組み）。

②6,000 名に無記名ストレスチェック実施。

## (3)ICT を活用した労働災害防止対策

①活用事例と開発が望まれる ICT とは、危険な場所に立ち入らなくても良いもの、例えば高所点検業務ではドローンを活用する等。

## (4) コスモスの改訂

①コスモス改訂委員会としては、メンタルヘルス、化学物質のリスクアセスメント、ICT 活用、建設従事者、利害関係者及びリスクの範囲拡大し中小企業向けに検討。

## 4. 意見交換

## (1) 各社における職員の教育体制について

①大手ゼネコンは土木部門と建築部門は分けて研修。

②東京労研教育委員会では、教育内容（経験年数、対象者、研修時間、内容、項目）を調査したところ、会社によってそれぞれ開催頻度が違い若手は研修回数及び時間も多く、作業所長クラスは毎年 2 時間研修を実施。

③北海道労研では各社が取り組んでおり、北海道労研としては実施していない。

④仙台労研では各社安全だけ教育、職長教育は社員全員受講し法令ダイジェストを 3 年かけて OJT を通して教育。

⑤四国労研では入社より 10 年目まで毎年 4 時間教育し、協力会社には 2～3 時間教育。

⑥福岡労研では独自冊子を作成し若手社員教育を実施。

⑦北信越労研では新入教育、協力会社教育、送り出し教育により安全意識向上に取り組んでいる。



## おわりに

今回の会議を通して「働き方改革」は休日、時間外労働、メンタルヘルス、外国人労働者問題、ICT からフルハーネス型安全帯（墜落防止器具）に至るまで、全て建設業全体の将来を見据えた改革であり、将来の担い手（若者）が災害（台風や地震等）から国土を守り、生活の安心と向上に無くてはならない存在である為に、我々はこの改革に真摯に向き合う重要性を実感しました。